(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3127300号
(U3127300)
(45)発行日　平成18年11月30日(2006.11.30)　(24)登録日　平成18年11月8日(2006.11.8)

(51)Int.Cl.　　F I
E06B 9/01 (2006.01)　E06B 9/01 K
E06B 9/02 (2006.01)　E06B 9/02 L
E06B 9/06 (2006.01)　E06B 9/06 620J

評価書の請求 未請求　請求項の数 3　OL　(全 5 頁)

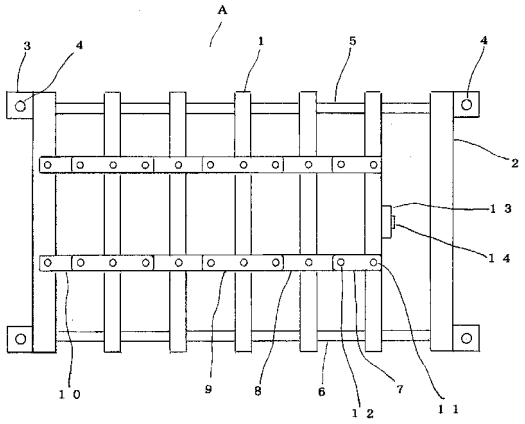
(21)出願番号　実願2006-7444(U2006-7444)
(22)出願日　平成18年9月14日(2006.9.14)
出願変更の表示　特願2004-276390(P2004-276390)の変更
原出願日　平成16年9月24日(2004.9.24)

(73)実用新案権者　595067051
板山　好春
長崎県長崎市上小島５丁目１２番１０号
(72)考案者　板山　好春
長崎県長崎市上小島５丁目１２番１０号

(54)【考案の名称】伸縮自在格子

(57)【要約】
【課題】
部屋の開口部の窓に取り付けられている格子は外からの不審者が容易に侵入できないように固定取り付けられる防犯用用途であるため、緊急時に窓からの脱出ができないこと、災害時の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げとなっていることを解決するために、容易に不審者が侵入出来ない、災害時の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げにならない格子を開発することを課題とする。
【解決手段】
格子窓枠２、３に固定される上部支持バー５、下部支持バー６に支持され、左右に滑動、伸縮可能な格子１を設けること、既存のガラス戸、及び伸縮可能な格子１を室内側から固定するロック機構を備えたことを特徴とする伸縮自在格子Aを提供することである。

【選択図】　図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
部屋の開口部の窓に対をなすガラス戸B、及び網戸Cの外枠に隣接して取り付けられ、格子窓枠２、３に固定される上部支持バー５、下部支持バー６に支持され、左右に滑動、伸縮可能な格子１を備えることを特徴とする伸縮自在格子A。
【請求項２】
左右に滑動、伸縮可能な格子１をレバー７、８、９、１０、ピン11、１２の組み合わせで連結し、上部支持バー５、下部支持バー６に支持され、左右に滑動、伸縮可能な機構を備えることを特徴とする請求項目1の伸縮自在格子A。
【請求項３】
既存のガラス戸B、及び伸縮可能な格子１をロック用バー１３、連結ピン１４、ロック用バー受台１５、締結部品１６、ロック機構受台１７、締結部品１８、ロックボルト１９、挟み込みバー２０、連結ピン２１から構成され室内側から固定するロック機構を備えることを特徴とする請求項目1の伸縮自在格子A。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、窓の外枠に取り付ける保安用、防犯用の格子に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の住居の窓には外からの不審者が容易に侵入できないように不着脱な固定した防犯用の格子を設けることがある。　従来の設置されている格子は固定され、外せないため、緊急時に窓からの脱出ができない、災害等の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げとなっている。
【特許文献１】特開２００１－０４９９７２号公報(第３頁、図２，４)
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
本考案は、部屋の開口部の窓に取り付けられる格子は外からの不審者が容易に侵入できないように固定取り付けられた防犯用用途であるとともに、緊急時に窓からの脱出ができないこと、災害時の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げとなっていることを解決するため、容易に不審者が侵入出来ない、災害時の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げにならない格子を開発することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
上記の課題を解決するために講じた手段は次の通りである。
部屋の開口部に対をなすガラス戸B、及び網戸Cの外枠に隣接して取り付けられる格子窓枠２、３に固定される上部支持バー５、下部支持バー６に支持され、左右に滑動、伸縮可能な格子１を設けたことを特徴とする伸縮自在格子A。
【０００５】
既存のガラス戸Ｂ、及び伸縮可能な格子１を室内側から固定するロック機構を備えたことを特徴とする、伸縮自在格子Aである。
【考案の効果】
【０００６】
本考案は次のような効果がある。
（ａ）外からの不審者が容易に侵入できないように室内側から固定するロック機構を備えた防犯用用途であるとともに、緊急時には窓からの脱出ができ、災害等の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げにならない。
【０００７】
（ｂ）部屋の開口部のガラス戸を開け、外気を室内に取り込めるようにし、且つ、虫が入

らないように網戸にして家人が就寝していても不審者が窓の格子を外し侵入する虞は少ない。

【０００８】

（ｃ）就寝時、あるいは長期外出時には雨戸を閉めることが一般であるが、昼間に雨戸を閉めていることは留守であることを悟られることになるが、本発明の伸縮自在格子を使うことで留守かどうかは悟られにくい。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００９】

本考案を実施するための最良の形態を図１乃至図５に基づき具体的に説明する。

図１は本考案の伸縮自在格子Aを窓に取り付けた状態の実施例を示す説明図である。

図２は図１に示す伸縮自在格子Aの横断面図である。

図３は図１に示す伸縮自在格子Aの縦断面図である。

図４は本考案の伸縮自在格子Aを縮めた状態の正面図である。

図５は本考案の伸縮自在格子Aのロック機構の実施例を示す拡大説明図である。

【００１０】

部屋の開口部の窓に取り付けられている格子は室内側から固定するロック機構を備え、外からの不審者が容易に侵入できない防犯用用途であるとともに、緊急時に窓からの脱出ができ、災害等の非常用代替え進入口並びに脱出口としての用途の妨げにならない。また、部屋の開口部のガラス戸を開け、外気を室内に取り込めるようにし、且つ、虫が入らないように網戸にして家人が就寝していても不審者が窓の格子を外し侵入する虞は少ない。

【実施例】

【００１１】

本考案の伸縮自在格子Aは格子１、格子窓枠２，３、上部支持バー５，６、連結レバー７、８、９、１０、連結ピン１１、１２、１４、２１、ロック用バー１３、ロック用バー受台１５、ロック機構受台１７、ロックボルト１９、挟み込みバー２０、及び締結部品４、１６、１８、から構成される。

【００１２】

第１図において、格子１は、格子窓枠２、３に固定される上部支持バー５、６に支持され、互いの格子１は連結レバー７、８、９、１０を介し連結ピン１１、１２により連結され、左右に滑動、伸縮することができる。

第２図において、格子窓枠２、３は既設の部屋の開口部に対をなすガラス戸B、及び網戸Cの外枠に隣接して、締結部品４により取り付けられる。

【００１３】

第２図において、ロック用バー１３は端の格子１に連結ピン１４により回動可能に取り付けられ、ロック用バー受台１５は挟み込みバー２０と連結ピン２１により回動可能に連結され、ガラス戸Ｂの端に締結部品１６により固定、取り付けられる。伸縮自在格子Aは、室内よりロック用レバー１３、挟み込みバー２０をロック機構受台１７に挟みこみ、ロックボルト１９で固定できるロック機構により室外から開けられなくなり、外からの侵入を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】本考案の伸縮自在格子Aを窓に取り付けた状態の実施例を示す説明図。

【図２】図１に示す伸縮自在格子Aの横断面図。

【図３】図１に示す伸縮自在格子Aの縦断面図。

【図４】本考案の伸縮自在格子Aを縮めた状態の正面図。

【図５】本考案の伸縮自在格子Aのロック機構の実施例を示す拡大説明図。

【符号の説明】

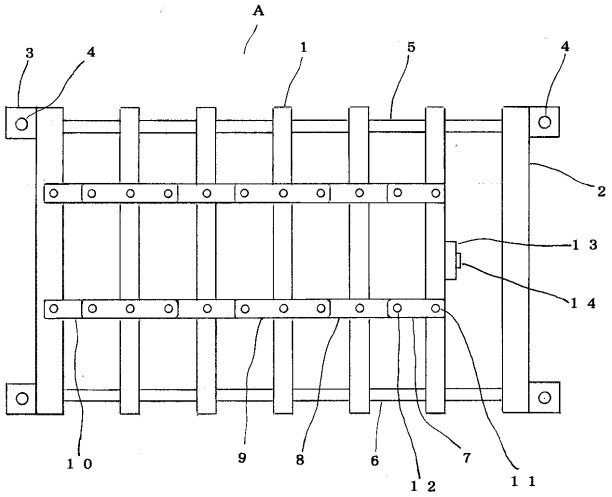
【００１５】

A　伸縮自在格子

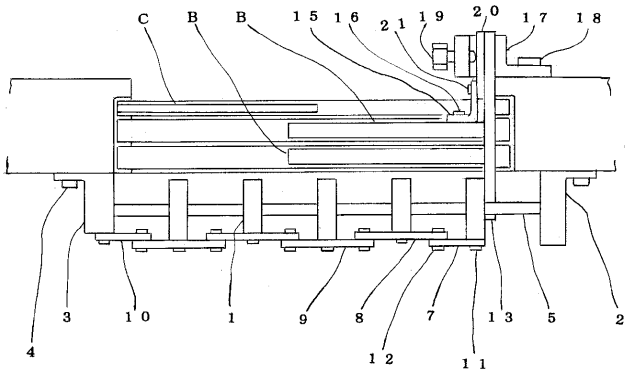
B　既設のガラス戸

C　既設の網戸
1　格子
2　格子窓枠
3　格子窓枠
4　締結部品
5　上部支持バー
6　下部支持バー
7　連結レバー
8　連結レバー
9　連結レバー
10　連結レバー
11　連結ピン
12　連結ピン
13　ロック用バー
14　連結ピン
15　ロック用バー受台
16　締結部品
17　ロック機構受台
18　締結部品
19　ロックボルト
20　挟み込みバー
21　連結ピン

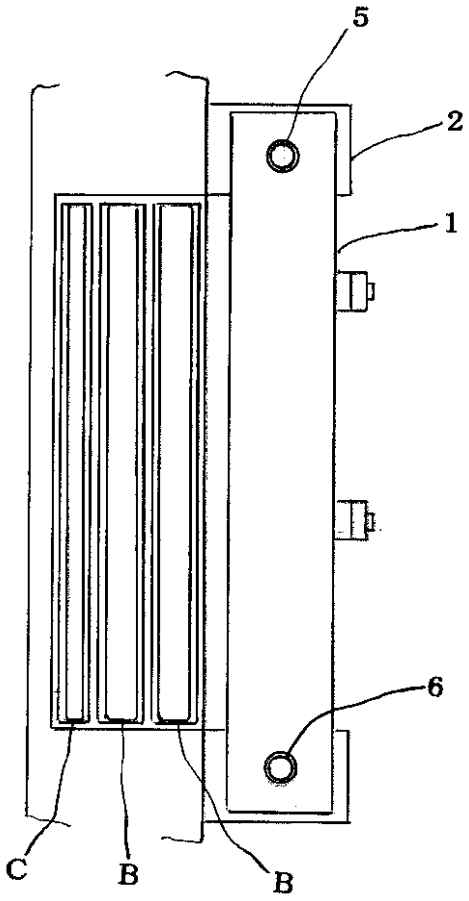
【図１】



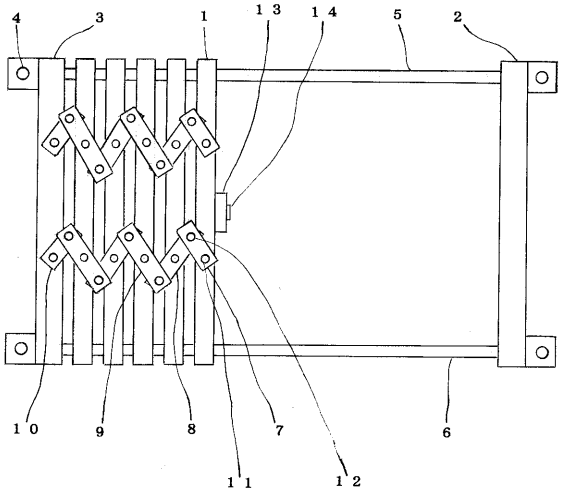
【図２】



【図３】



【図４】



【図５】

